



Researcher profile

教育・学生支援機構
教学マネジメント室

講師 **岩野 摩耶**

令和4年度AI研究デザインプロジェクト

AI解析による長期記憶予測を用いた学修成果測定に関する研究

AI × アンケート分析

研究内容

教育成果の測定についての研究に取り組んでいます。大学は、学生が教育を受けた結果を授業アンケートという形で情報収集しています。しかし、5段階で回答する定量評価には半分以上の学生が最高点をつけており、成果測定の妥当性について十分把握できない状況にあります。そこで、AI技術（テキストマイニング）を用いて自由記述欄を解析することで、学生が受講した講義に対する満足度や達成度、理解度などをより正確に把握できないか模索しています。

研究の可能性

テキストマイニング技術では、自由記述内容から「何がどうだったから、良かった/悪かった」という“具体的対象物”、“状態判断”、“良し悪しなどの感性”といった情報が取得できます。現在の取得精度は80%程度ですが、この数字を向上させれば、学生の印象に残り、深く記憶された知識が何であるかという情報を獲得することができます。先生方が授業で伝えたかったことと、学生が獲得した知識が一致しているかがわかれば、授業の改善にも反映しやすくなり、良いスパイラルが回るようになると思います。

研究の面白さ

AI技術の中でもテキストマイニングは、人が使う言葉をコンピュータに理解させる技術です。言葉はコミュニケーション手段ですから、5段階などの数字で表現するものよりも、複雑で多様な内容を伝えることが可能です。実際に分析してみると、定性と定量のデータでは異なる意見が出てくる傾向もわかりました。これらの意見の関係性をネットワーク図で見て、因果関係を推察することもできます。人間中心の視点でAIを使えば、新たな発見につながる点が魅力だと感じています。文系と理系の壁、教育と研究の壁、人間とAIの壁が低くなる未来について、異業種、多領域の研究者や実践者とも意見を交わしながら考えていきたいと思っています。産業界では膨大なデータが収集されイノベーションに活用されているので、教育・学生支援での応用を目指したいと考えています。